

独立監査人の監査報告書

平成21年5月16日

財団法人埼玉県芸術文化振興財団
理事長 竹内文則 殿

吉島公認会計士事務所

公認会計士 吉島 一良 印

私は、財団法人埼玉県芸術文化振興財団の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの平成20年度の下記の財務諸表及び収支計算書（以下「財務諸表等」という。）について監査を行った。

記

I. 財務諸表

1. 貸借対照表総括表
2. 正味財産増減計算書総括表
3. 一般会計の貸借対照表、正味財産増減計算書
4. 文化振興事業特別会計の貸借対照表、正味財産増減計算書
5. 施設管理事業特別会計の貸借対照表、正味財産増減計算書
6. キャッシュ・フロー計算書
7. 財産目録

II. 収支計算書

1. 収支計算書総括表
2. 一般会計の収支計算書
3. 文化振興事業特別会計の収支計算書
4. 施設管理事業特別会計の収支計算書

この財務諸表等の作成責任は理事者にあり、私の責任は独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することを含んでいる。私は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

監査の結果、私の意見は次のとおりである。

- (1) 財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、財団法人埼玉県芸術文化振興財団の平成20年度末日現在の財政状態並びに同事業年度の正味財産増減及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。
- (2) 収支計算書は、「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ)に従って、財団法人埼玉県芸術文化振興財団の平成20年度の収支の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

財団法人埼玉県芸術文化振興財団と私の間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上